

科 目 名
技術と産業社会 Technology and Industrial Society

2年 前期 2単位 選択

河 口 和 幸

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 2-(2), (3), 3-(3)

建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
		建築構造コース		

【概 要】

前期に引き続き現代の経済・社会において生起している諸問題をそれぞれつながりのあるものとして体系的に捉えていく。後期では、「いま」をよりよく理解するために歴史を振り返るほか、地球環境問題にも視野を広げる。これらを通じて、社会をどのように変えていくべきかを考える手がかりとする。

【到達度目標】

現代の諸問題を体系的に整理し直し、経済社会史、地球環境問題にも理解を深める。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 商業モラルの変質	商業モラルはなぜ変質したか、CSRの本質、会社は誰のものか
② EUとユーロ	EUとユーロの可能性、東アジア共同体構想、国民国家の求心力と遠心力
③ 南北格差（1）	南北格差の現状——途上国の「開発」やODAのあり方
④ 南北格差（2）	南北格差の現状——IMF・世銀等国際機関の役割
⑤ 農業と食糧	食の安全と食糧の安全保障、農業を巡る環境問題
⑥ 経済社会史（1）	資本主義の勃興から世界大恐慌まで
⑦ 経済社会史（2）	戦後日本の出直しと復興への道、高度経済成長期
⑧ 経済社会史（3）	ブレトンウッズ体制の崩壊、石油ショック、ブラザ合意を経てバブルへ
⑨ 経済社会史（4）	バブルの膨張と崩壊、「失われた10年」を巡って
⑩ 経済社会史（5）	リーマン・ショックとその後の世界不況、基軸通貨としてのドル
⑪ 地球環境問題前史	「成長の限界」「沈黙の春」「核の冬」、公害問題
⑫ 地球温暖化（1）	温暖化の原因、資源を巡る問題
⑬ 地球温暖化（2）	温暖化の現状認識と将来予測、まだ引き返すことができるか
⑭ 地球温暖化（3）	温暖化回避へ向けた取り組み、地球環境問題にどう対処していくか
⑮ 講義のまとめ	二十世紀はどんな世紀であったか、社会をどのように変えていくべきか
⑯ 定期試験	学生自身による自己評価

【授業方法】

毎回の授業においては、レジュメや流れを図示したチャート等を配付する。また、テーマによっては新聞記事等を使いながらディスカッション方式を取り入れるほか、小レポートを書いてもらうことがある。

【学習到達度の評価】

ディスカッションや質疑の中で到達度を見ていく。

【評価方法】

- 1) テスト結果だけでなく、小レポート等を総合的に評価する。
- 2) 全授業終了後に学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

2年：企業経営と文化

【教科書・教材】

教科書は使わず、必要に応じてレジュメ等を配付する。

【履修上の注意】

新聞をよく読むこと。積極的な授業への参画・質問等を期待する。

（注）本講座は平成23年度以降は「現代の社会と経済Ⅱ」として開講される。